

二宮翁夜話

第6回 p.57/12 (水) 資料

第二篇 天道と人道

五九、p.95. 嘉七(原嘉の親分)一才子

嘉り洲、人為(提防)、開拓屋の終る。

六〇、p.97 人造物は滅せ、天造物だけが残る。

六一、p.97 人道興廢の多かりし。

六二、p.98. 茶根譚 明末17世紀初の頃の洪応明

言 自誠、号還初道人の著
儒教・仏教・道教の三つの教を融合し
その上になつて此世の道も説く。

前集「専ら世に立ち人の交ある道を説く」
後集「主として山林自然の趣を説く」
退隱閑居の樂しきと述べる。

題名の由来は、宋代理の証信民のことは

「人常咬得菜根、則百事可做」とある。

六三、p.99. 翁の本筋は、人々の心田の荒蕪を開拓して

天から授かった善の種へ紅葉礼智を培養して

この善の種を収穫して、又まき返しまき返して

國家の善種をまきひろめることにある。

p.100. 大學「大學之道在明明德、在親民、在止於至善。」

論語「公孫丑上篇」

〔要旨〕

孔子曰、徳之流行、速於置郵而傳令。

六四、p.100 人道の大元は衣食住にあり

公孫のくとは、歌五首とあり。政治も教育もくよを討つものなり。

六五、p.102 仁義礼法は世の務め。

六六、p.103 賤女賤男の心情、人道と云ふことの所詮。

六七、p.103 悟道と人道との相違

悟道は遠觀（自然の行くところを觀する）

人道は生活（行き当たることを行け）

論語「里仁篇四、一八」

子曰、事父母幾諫。見志不從、

又敬不違。勞而不怨。

六八、p.106 創業は難し、守成は易し。

大學の所謂修身在正其心者……

別紙参考③

六九、p.107 老子の道↕人道

所謂脩身在正其心者。身有所忿懣則不得其正。有所恐懼則不得其正。有所好樂則不得其正。有所憂患則不得其正。

四書集注 朱熹著

所謂身を脩むるには、其の心を正し

うするに在りとは、身念懣する所有れば、則ち其の正しきを得ず。恐懼する所有れば、則ち其の正しきを得ず。好樂する所有れば、則ち其の正しきを得ず。憂患する所有れば、則ち其の正しきを得ず。

讀本の仮名大學
大學を專讀する
伊藤田覺著